

このコーナーでは、日ごろあまり表に出ることのないNICの事業やボランティアスタッフの活動などをご紹介します。みなさんの知らなかったNICのあれこれを見つけてみてください。

外国人の子どもの支援者が語り合う場 「多文化子どもサポート連絡会」

多文化子どもサポート連絡会とは？

平成18年度からNICが実施する「外国人児童・生徒サポーター研修～実践編～」の受講修了生を中心とした組織です。平成22年5月に発足し、外国人の子どもの支援に関わる教員、日本語指導員、通訳、ボランティアなどが参加しています。年に5回程度、それぞれの現場で抱える課題等をテーマに研修、情報・意見交換を行っています。

支援者が必要としていることは？

外国人の子どもの抱える課題は、言語(日本語習得、母語保持)や教科学習だけでなく、進路(進学、就職)、保護者、生活環境など多岐に亘り、来日時期、在留資格など、さまざまな要素が複雑に絡み合い、包括的なサポートが必要です。そのため、支援者は新しい情報や知識を共有し、ノウハウを得る機会や、自身とは異なる場所や立場で活動する方々からのアドバイスを求めています。



支援者へのサポート＝外国人の子どものサポート

「外国人児童・生徒サポーター研修～実践編～」は支援者が学び、つながる場、「多文化子どもサポート連絡会」はそのつながりを継続させ、課題の解決策を一緒に考える場です。連絡会のメンバーは、毎回それぞれが抱える悩みや有益情報を持って参加しており、情報・意見交換することで、解決の糸口を見つけ、現場で活用しています。NICは、支援者をサポートすることが、外国人の子どものサポート体制全体のレベルアップにつながると考えています。

過去の連絡会の内容の一部

- 名古屋国際センター海外児童生徒教育相談の事例から
- 名古屋国際センター外国人行政相談の事例から
- 定時制高校における外国人生徒への支援状況と課題
- 成人後に母国に帰国し、弁護士になった日系ブラジル人女性の体験談
- ネパールの最新社会情勢

※多文化子どもサポート連絡会は、外国人の子どもの支援活動をしている方を対象としています。参加希望の方は交流協力課までお問い合わせください。

交流協力課
☎052-581-5689 ✉vol@nic-nagoya.or.jp

国際留学生会館から

「私の魅力的な留学生生活」

～奥が深い日本語と素晴らしい日本人の国民性～

南山大学外国人留学生別科
メルジェン アルスラノヴナ オライェバ(トルクメニスタン出身)

Yene gorüşyänçäk
イェネゴルシュヤンチャック
また、お会いしましょう！(トルクメン語)



昨年9月に文部科学省国費外国人留学生として来日し、南山大学で日本語を学ぶトルクメニスタン出身のメルジェン アルスラノヴナ オライェバさんに、日本での生活や国際留学生会館(以下「ISC」)などについてお話を伺いました。

私は幼い頃から外国語に興味があり、物心ついた頃には英語やロシア語を習得していました。日本語に惹かれたのは高校生の頃です。日本語の漢字やひらがな、カタカナを用いた特殊な文章の構成は諸外国には例がなく、大変興味深い言語だと感じました。そこで、日本で生活し文化や生活習慣なども学びたいと考え留学を決意しました。

留学生活の中で日本人と触れ合う機会も数多くありますが、彼らとの接点で不愉快に感じたことは一度もありません。日本人の礼儀正しさ、他人の気持ちに寄り添う思いやりの深さ。日本の評判は以前

から聞いていましたが、想像以上に素晴らしい国民性だと思います。

ISCでの生活も私にとっては大変有意義です。ISCは単なる学生寮ではなく、異なる国籍、大学の留学生同士が交流したり、日本文化体験の機会を多く提供しています。昨年12月に開催された「十二単着付け体験会」ではモデルを務めました。映像でしか見たことがない十二単を身にまとい、舞台上に立ったときは、現実に起きている出来事とは信じられず、夢の中にいるかと思えませんでした。言葉では言い表せない美しさと感動をいただき、ご尽力いただいた皆様には心から感謝いたします。

5月には一度帰国します。日本での生活は濃厚で刺激的な毎日でした。帰国後は日本や日本人の素晴らしさを母国の家族や友人などと共有し、理解を深めてもらいたいと思っています。

トルクメニスタンの紹介

面積:48.8万km²(日本の1.3倍で85%が砂漠)
人口:約580万人(2017年)
首都:アシガバート
公用語:トルクメン語
その他:永世中立国
1991年にソ連から独立
石油、天然ガスを埋蔵
ロシア語も広く通用する



▲「十二単着付け体験会」でモデルを務めるメルジェンさん(右)



▲「滋賀県(スツアー)彦根城天守閣前」(右端がメルジェンさん)

国際留学生会館とは… NICが2001年から管理・運営している、名古屋市港区にある留学生専用の宿泊施設。居室90室のほか、研修室や和室、体育室などを備え、100名の留学生が生活できる。日本文化理解講座の開催や各種相談・情報提供、地域住民との交流などを行っている。

ぶらりライブラリー

NICライブラリー 名古屋国際センタービル3階 9:00~19:00 月曜休館
☎052-581-0102
貸出は2週間6冊まで可能です。(名古屋市内・近郊在住・在勤の方に限る)

「〇〇図鑑」

皆さんはどういう目的で図書館を利用しますか？自分で買うには高価すぎるけど、読んでみたい、見てみたい、そんな本を求めて図書館を利用する方もいるのではないでしょうか。図鑑類はその筆頭と言えるでしょう。

私たちが一般的に使っている数字は、インド生まれのなになぜアラビア数字と呼ばれているのか、ギリシャ文字の大文字はなぜ直線部分が多いのか、そしてその小文字はなぜ曲線が多いのか…など。現在、日常的に使われている物やシステムの歴史を図解も交え分かりやすく紹介した「世界のしくみ まるわかり図鑑」。普段使っている数字が、先人の失敗や挑戦のおかげで、今日支障なく計算に使える事実に触れ、また、それを後世に渡していく脈々とした流れの中に私たちがいるかと思うと数字を書く手が緊張します。そして、何千年後に数字がどのような形になっているのか、何と呼ばれているのかをのぞいてみたい気になります。

その他にも、書名通り世界のサンドイッチを美しい写真



左から「世界のしくみ まるわかり図鑑」「世界のサンドイッチ図鑑」「失われた世界の記憶」

とレシピで紹介している「世界のサンドイッチ図鑑」。カメラより前の幻灯機時代の貴重な画像を集めた「失われた世界の記憶」など、パラパラとページをめくって見るだけでもあっという間に時間が過ぎそうです。

インターネットで何でも調べられる時代ですが、図書館でぶらっとしてみると、何か新しい出会いがあなたを待っているかもしれません。皆さんの暮らしの中の新しい寄り道スポットになれば幸いです。

クイズ Q. なぜインド生まれなのに「アラビア数字」とよばれているか？

シリーズ

グローバルに活躍する若者たち

世界に飛び出そう！グローバルユースCafe

第3回グローバルユースCafe 企画・運営メンバー代表 近藤 里帆

1月16日に「-若者が集い、世界とつながる場- グローバルユースCafe第3回 人生を変える旅、踏み出そう！世界への一歩」を開催し、大学生や高校生など19名が参加しました。今回は、海外に関心はあるが、一歩踏み出せない若者の背中を押すきっかけになればと、これまでのユースCafeに参加した若者が企画し、当日の運営を行いました。

世界一周経験者である市野将行さん(グローバル名古屋オーナー)、青年海外協力隊OGの浅井恵美子さん((公社)青年海外協力協会中部支部職員)、海外経験豊富な三輪紀理奈さん(名古屋立大学3年生)の3名のゲストから、海外に行くことの楽しさや経験を通して成長したことなどについて話をさせていただきました。「海外で一番印象に残ったことは何か」という質問に対して、どのゲストも「人との出会い」と答えていたのが印象的でした。後半にゲストを囲んだ交流会を行い、日本とは全く異なる現地の食文化や文化など、より詳しい話を聞くことができました。浅井さんが話をされた「同じ言語を話す者はみんな仲間だから知らない子どもと一緒にご飯を食べる」というソロモン諸島の「ワントーク文化」が、とても興味深かったです。参加者からは「英語が話せなくても海外に行ってみようと思った」「知識を経験に変えることの大切さが分かった」というコメントがあり、参加



▲交流会は、和やかな雰囲気の中、ゲストが参加者の質問に答えていました。

者の疑問や不安を解消できたようです。打ち合わせの際、企画・運営メンバーの間で意見が割れることも度々あり、何度も話し合いを重ねました。意見をまとめるのが大変でした。当日は参加者が内容に満足している様子を見て、この企画を行って良かったと思いました。



▲最後はゲストと参加者、企画・運営メンバーで、笑顔で集合写真

※グローバルユースCafeとは「海外に行きたい」「海外で働きたい」「地球上の出来事に関心がある」…という若者が集い、語らい、一歩踏み出す「つながりの場」です。

交流協力課
☎052-581-5689 ✉vol@nic-nagoya.or.jp